

◆提案1

事業名	旧成人寮跡地利用(No.1)
目的	<p>①地域で暮らす方々を支えるための拠点的な施設の整備 ②ターミナルケアの導入(緩和ケア)</p>
趣旨	<p>・旧成人寮を取り壊した後、地域支援センター、多目的室etcを兼ね備えた複合的な施設の建設。地域の方にも開放し誰でも使える場所とする。 ・将来的にターミナルケア・緩和ケアを導入し、家族の時間を確保したり、部屋の提供を行う。</p>
事業概要 (事業全体に掛かる経費の見込み額)	<p>①地域支援センター、多目的室etcを兼ね備えた複合的な施設の設計。地域支援センターについては、地域で暮らす方、GHで暮らす方(地域で生活して身寄りがなくなり相談で関わるケースやグループホームから1人暮らしへチャレンジしたケース)を主に支える機能(感染症や帰省の時、入所へ戻るのではなく、グループホーム(自分の部屋)で過ごす事をサポートする)や絵画教室、3B体操etc、外部の講師を呼んで行う活動を行う場、地域の方の集まりや、法人の会議等で使用できる機能。上記の機能を複合した施設作り。</p> <p>②地域支援センターの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の受け入れ、対応(虐待・緊急を要する時など) ・相談の機能 ・24hの相談の受付 ・アパート型のホーム(地域に出せない方やショートステイ用) ・緊急のケースを受け入れや体験などで使える部屋の提供 <p>③ターミナルケア・緩和ケア導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余命わずかな方をどのように受け入れをするか。選択としては、自宅・病院・施設の3つになる。利用者様の父兄も高齢になり、兄弟も居るが疎遠になると病院か施設になります。地域支援センターの中へ家族の方と一緒に宿泊できる場所を作れば利用できる。1番は、本人様が誰と一緒に居たいのか、居たい方と一緒に過ごせる場所・部屋を提供したい。本人が住み慣れた場所で家族や施設のスタッフ、友人たちに見守られて、最後の貴重な時間を安心して過ごす事がサポートできるようにしたい。 <p>・痛みやその他の身体的問題・心理社会的問題などを発見し、適切なアセスメントと治療や処置を行い、苦しみを予防し、緩和する事でクオリティ・オブ・ライフを改善すると人が自分らしく最期の時までを過ごす事ができるようサポートする事が緩和ケアの大きな役割の1つです。</p> <p>どこで最期の時を迎えるかと言う事と同じくらいに、いかに最期の時を迎えるかと言う緩和ケア・ターミナルケアは、身体的な苦しみを軽減するケアだけではなく、本人や見送る家族の心のケアも考えなくては行けないと思います。ターミナルケアを必要とする方がいる場合、同時進行で本人のケアプランも進めて行かなければいけない。本人の状態でその都度、その都度、ケアプランも変更しながら本人らしい生き方をサポートする事が大切だと思う。</p> <p>『受け入れが難しいケース』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間点滴や胃ろう・経管栄養など医療行為に当たる物は受け入れが難しい。
期待される効果	<p>①地域支援センターは地域支援生活支援拠点事業としての機能も持つ。</p> <p>②親も利用者も高齢が進み、家族と居る時間が減って来る事が予想される為、家族の方と一緒に宿泊出来る施設があると家族や利用者様は、安心して家族の方と一緒に過ごす事が期待できる。</p>